

人と人をつなぐ力がある民俗芸能の伝統を守り継承、未来を切り開く 学生ビジネステスト 全国大会でグランプリ

会にとつても重要といふ。近年、少子高齢化による担い手不足と世帯数の減少による資金難で10年後には日本中の大好きな民俗芸能がなくなってしまうと危機感を持ち、学業の傍ら2023年10月に民俗芸能を守る任意団体「とらでいっしゅ」を立ち上げた。

昨年7月に行われた三津祇園祭(東広島市安芸津町)では、大名行列に同コンサルティングの二つの軸、参加者増加プログラム(広報活動を通じて、観覧者数を増やす)と担い手公募プログラム(祭りの担い手を有料で公募し、祭りの体験を提供する)を企画し運営。高齢化で担い手の規模が約80人と減少していたが、150人まで回復した活動実績を報告した。

事業を通して、民俗芸能の保存と継承、地方創生の実現を目指す。

■グランプリを受賞して

言葉で表現できないほど、うれしく応援してもらった多くの人たちに感謝。うれしい気持ちを忘れずに、等身大の自分でビジネスを頑張りたい。

片桐 萌絵さん

■発表内容
日本の祭りなど伝統的な民俗芸能を継続的に次世代へ受け継いでいくための民俗芸能専門コンサルティングを提案した。

地元の愛知県で約700年続く伝統的な花祭に、幼いころから参加し自らも祭りの担い手として活動した。みんなが一体となって熱くなり、人ととのつながりをつくる民俗芸能は、現代社

総合科学部総合学科3年

■今後の目標

4月下旬に「とらでいっしゅ株式会社」を設立した。利益を一番に追求するのではなく、祭りが好きという自分の気持ちと地域の人たちに寄り添い、思いを大切にしながら「片桐さんだったら、地域の民俗芸能を任せられるよ!」と安心して託してもらえるように頑張りたい。



2004年生まれ。愛知県新城市・東栄町出身。年間20件以上の民俗芸能を飛び回る生粋の民俗芸能才タク。3歳から今日まで地元愛知県東栄町古戸地区の「花祭」にて現役の担い手。趣味は吹奏楽。



「花祭」で舞を披露する片桐さん



▶受賞式(左から)日刊工業新聞社
代表取締役社長井水治博さん、
片桐萌絵さん、経済産業省イノ
ベーション・環境局・大学連携推進
室長川上悟史さん。(写真提供:日
刊工業新聞社・CVG事務局)



2025/5/22 プレスネット掲載